

特集：大学説明会

大学説明会の運営に参加して

福士 路花（筑波大学 生物学類 1年）

大学説明会のお手伝いをしようと思ったきっかけは、去年の大学説明会が私にとって筑波大学への進学を希望する決定打となったことでした。それまでは資料だけを見比べて他の大学と迷っていたのですが、説明会に来て筑波大学の雰囲気よさを実際に肌で感じ、この大学に入りたいと思うようになりました。

今回私は午前高校生を会場まで誘導を、午後遺伝子実験センターツアーの引率をしました。会場誘導の方は、事前の会場案内がよかったためか、殆どの方が正しいバス停で下車されていたようで、スムーズな誘導ができたと思います。ツアーに関しては、事前にシールとチケットを配布しましたが、実際にはシールだけでも十分だったように思います。また、引率側のミスで予定時刻よりもかなり早く遺伝子実験センターに到着してしまい、先生方を待つ間に中途半端な時間ができてしまったのがたいへん残念でした。私たちツアー担当の生徒は、建物まで引率するだけでなく、先生方の手伝いをしたり、先生方がいらっしゃるまでの間に事前に説明をしたり、などと何かもっとできる仕事があったらもっと中身の濃いツアーにできるのではないだろうかと思いました。

説明会に参加する側だった去年と説明会を作る側だった今年を比べてみると、気になること、感じるものが随分ちがうものなのだなあと感じます。例えば、今でこそ筑波大では横だけではなく縦(先輩後輩)のつながりが強く、生徒同士の雰囲気がよいということを自分は知っているけれども、去年はそんなこと全く気づかなかったなあ、とか、去年はその辺を歩いている大学生のお姉

さん・お兄さんに話しかけるのすら戸惑っていたけど、実際自分がスタッフになってみると、ばんばん声をかけてくれて構わないと思っていることなど、高校生と大学生の気持ちのギャップが少なからずあるなと思いました。しかし、一番大きなギャップがあるのは先生方と高校生の気持ちだなあと感じました。例えばツアー中、先生方がどんどん質問して下さいね、と言っているのに対し、参加した高校生は周りの雰囲気に押されてか中々手を上げにくそうにしていました。確かに去年の自分も、ツアー中にお話を聞いて、疑問を持ったにも関わらずなんだが聞きづらく、諦めていました。高校生の時は、大学の先生というのとはとにかく偉くて、冗談もわかってくれない石頭のおじさんで、カンタンな質問をするとバカにされるんじゃないか…などと非常に怖いイメージを持っていたりもしました。けれど大学に入ってから、そんなイメージは間違いで、本当は楽しくてきさくで、質問されるのを心待ちにしている先生方が多いことを知りました。昔の私のように大学の先生に怖いイメージをもっている高校生は少なくないと思います。そんなイメージを払拭してあげるためにも、先生方ともっと交流できる機会を増やせたらよいのではないだろうかと思っています。先生方と生徒の間の雰囲気の良さもその大学の一つの魅力だと思います。せっかくの魅力を知ってもらえずに筑波大学を評価されてしまうのはとてももったいないことだと思います。

おわり。

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 17, 2007.